

2018年度 SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 特別総会 議事録

日時：2019年1月10日(木) 12時00分～13時00分

場所：福岡国際会議場メインホール

出席者：73名

プログラム

1. 開会挨拶

報告事項

2. 施設報告

3. 第8回評議員選挙結果と再投票

4. 行事幹事報告

- 行事開催状況
- SPring-8 シンポジウム2018開催報告
- SPring-8 シンポジウム2019開催計画
- 第2回 SPring-8 秋の学校開催報告

5. 会計幹事報告

- SPring-8 シンポジウム2018決算
- 2018年度 SPRUC 予算執行状況

6. 利用委員会報告

- 研究会開催状況
- 分野融合型研究グループ

7. 改元に伴う年号表記

8. 高度化に向けた SPRUC 内議論

連絡事項

9. 平成30年度今後の予定

議題：

1. 開会挨拶

冒頭、SPRUC 水木会長から挨拶があり、引き続き、理化学研究所(理研)放射光科学研究センター石川センター長、高輝度光科学研究センター(JASRI)土肥理事長からご挨拶をいただいた。

水木会長からは、東北放射光計画の実現が見えてきた現在が SPring-8 II 計画の実現にむけ、SPRUC がどのように寄与していくかを検討する重要な時期であり、SPring-8 が今後も引き続き日本の科学技術を先導してゆく素晴らしい施設となるよう SPRUC も継続して様々な企画を実施してゆくの、会員にも協力を仰ぐ趣旨の挨拶があった。

石川センター長からは、次世代放射光計画が実施されることになったので、日本の放射光科学

全体中を見渡す中で、SPring-8 が総合的に力をつけていく上で何をするかを考える必要があり、SPRUC、JASRI、理研間の連絡と協調を一層高め SPring-8 II に向かって進んでいきたいとの趣旨でご挨拶いただいた。

土肥理事長からは、SPring-8・SACLA の中間評価を受け、施設者理研との間で SPring-8 のビームラインの今後のポートフォリオについてコンセンサスを作り、さらに利用者 SPRUC とともに議論し、良いビームラインを作っていきたいと考えているとの趣旨でご挨拶いただいた。この中で、理研ビームラインと共用ビームラインの交換によるたんぱくビームラインの高度化が例示された。また継続して使用する共用ビームラインは JASRI 内で高性能化を図っていくとの趣旨の発言もあった。

報告事項

2. 施設報告

JASRI 山川常務理事から、施設の利用促進に関わる報告があった。JASRI の設立経緯、事業収入の柱、職員数、使命、経営方針等の概要の説明の中で、SPring-8、SACLA の地で産学連携によるイノベーションに向けた利用者の支援を SPRUC、理研と協力し実施していること、またこの支援の中で 26 本の共用ビームラインを運営し、併せて研究手法等に関する調査研究を進めていること等が述べられた。さらに総運転時間等を含む運転支援業務の具体的な説明があり、また利用促進業務に関しては、産業利用、測定代行の実施、課題審査過程の詳細、利用制度、発表論文数、利用者の受賞等について説明があった。報告の最後に、積極的な成果公開への協力依頼、成果専有利用時の利用料負担に関する説明、成果公開制度の説明、2019B 期の募集予告、共用ビームラインとなった BL45XU の利用案内等があった。この報告に対し質問等はなかった。

3. 第 8 回評議員選挙結果と再投票

水木会長から、候補者名の誤植のため学術機関からの候補者に関する投票が無効になったこと、これを受けた再選挙について期間、開票予定日時、会員への再投票の周知方法等についてお詫びと報告があった。藤原庶務幹事から、適正に投票された産業機関からの候補 5 名の信任が報告された。これらの報告に関し質問はなかった。

4. 行事幹事報告

● 行事開催状況

第 18 回 SPring-8 夏の学校、SPring-8 シンポジウム 2018、第 2 回 SPring-8 秋の学校の開催について以下の説明が田中行事幹事・大和田行事幹事からあった。

● SPring-8 シンポジウム 2018 開催報告

開催日時、場所、組織、参加者数等に加え、「動き出した「将来への取り組み」」と題した SPring-8 シンポジウム 2018 が、SPring-8 の現状の課題を解決して将来に向けた取り組みを加速するための具体的な動きを示していくことをテーマとして、産官学の基礎科学から産業 応用までの幅広い分野の視点からの討論の場となった。特に理研、JASRI、SPRUC 三者によるパネルディスカッションについて個別のスライドを使った報告があり「BL 統廃合のあり方や共用 BL・理研 BL・専用 BL のカテゴリ分け、BL の評価などについての議論」や「軟 X 線向け高輝度 3 GeV 級放射光源計画を踏まえ、SPring-8 次期計

画において、BL がカバーすべきスペックの議論の必要性の確認」などが行われたことが紹介された。詳細は利用者情報誌の報告記事で参照できると補足があった。

- SPring-8 シンポジウム 2019 開催計画

今回のシンポジウムは岡山大学創立 50 周年記念会館にて 8 月 30 日から 31 日の期間で開催される予定との報告があった。

- 第 2 回 SPring-8 秋の学校開催報告

秋の学校の特徴の説明と講義講習数と講習内容の設定で SPRUC 研究会が貢献したこと、参加者数と参加者の多くが既存の SPring-8 ユーザーではなく新規ユーザー獲得に貢献していること、参加者の声等を含めた開催報告があった。また第 3 回 SPring-8 秋の学校の計画が進んでいることから SPRUC 研究会の協力を仰ぎたい旨の依頼があった。

- 行事幹事報告を通して会場からの質問は無かった。

5. 会計幹事報告

- SPring-8 シンポジウム 2018 決算

今年度のシンポジウムは予算に沿って開催され、決算がほぼ確定したことが藤原庶務幹事から報告された。

- 2018 年度 SPRUC 予算執行状況

大きな変更なく順調に執行されていることが藤原庶務幹事から報告された。秋の学校での講師旅費等を支出したこと、研究会の講師旅費支給ルールの変更を受けた予算の有効活用を促す趣旨の発言が併せてあった。

- 会計幹事報告を通して会場からの質問は無かった。

6. 利用委員会報告

- 研究会開催状況

全研究会数の 6 割に当たる 18 の研究会で研究会が開催されたこと、残り 4 割が年度末に向けて開催されるであろうとの見込みについて原田利用幹事から報告された。また旅費支給に関する内規の改正について改めて説明があった。

- 分野融合型研究グループ

ナノデバイス科学が第 2 期終了まで 2019A 期を残すのみであるところまで進んだこと、また JSR2019 企画講演「ナノスケールスピンドデバイス開発に向けた放射光利用の最前線」が行われたことが報告された。

実用の第 2 期が始まっていること、1 期目の事後評価が終了したこと等が報告された。

- 利用委員会報告を通して会場から質問は無かった。

7. 改元に伴う年号表記

改元に関わる混乱回避を目的に、SPRUC における書類では西暦を含む表記に努めることが 2018 年度第 3 回評議員会で承認されたことが、藤原庶務幹事から報告された。

8. 高度化に向けた SPRUC 内議論

SPring-8 II をも見据えた SPring-8 の高度化・高性能化に関するワークショップ「次期計画を見据えた高度化に関わる WS (案)」を 3 月に開催すると案内が水木会長からあった。特別総会

から間のない3月下旬開催であることについて、理研・JASRI といった SPring-8 内部で始まっている具体的な高度化・高性能化の議論に関する情報を SPRUC としてできるだけ早く共有し、計画にユーザーの声が反映されるようにしたいとの考えが説明された。併せて、新しく始めた利用者情報誌の記事「SPring-8 ユーザー協同体四季報」に関連する情報を記載しているので毎号注目してほしい旨の発言があった。本件に関して会場からの意見、質問等は無かった。

連絡事項

9. 今後の予定

藤原庶務幹事から 2019 年 9 月までに予定されている活動について紹介があった。